

ウォーターフロントにおけるプロムナード空間のあり方に関する研究*

A Study on a Concept of Promenade in Waterfront*

上野幸太**・横内憲久***・岡田智秀****

By Kota UENO**・Norihisa YOKOUCHI***・Tomohide OKADA****

1. 研究目的

わが国のウォーターフロント(以下、WF)開発において、商業・業務機能等を有する建物と水域の間にプロムナード的な遊歩道が整備されることが多い。

プロムナードの概念は、単なる歩行空間ではなく、その空間の質を重視し、「高格性」「楽しさ」「健康」の3概念の複数を含む空間とされ、このうち「高格性」や「楽しさ」は都市的機能(宮殿・庁舎・劇場・港・屋外レストランなど)から、「健康」は自然的機能(海・河川・面的な緑地・海水浴場)からもたらされるものとされている¹⁾。こうした都市的・自然的機能はWFにおいても備わるものであることから、WFのプロムナード整備においては、建物(都市的機能)と水域(自然的機能)を同時に視体験できる空間とすることが、その空間のあり方の1つと認識する。

建物と外部空間相互の関係については、市街地の街路空間の快適感(囲繞感)が、ケヴィン・リンチや芦原義信らによって「街路幅(d)」と「その両側の建物高さ(h)」の比率(d/h)から導かれているが(快適なd/h=2~3)²⁾³⁾、片側が海・浜などの開放的な空間を有するWFにおいては、このような関係(指標)は明確にされていない。

そこで、本研究はWFのプロムナード空間のあり方を明確にするために、WFにおけるプロムナードでの空間評価とその評価要因(空間構成と評価要素との関係)を捉えることを目的とする。

2. 研究方法

*キーワード 景観、親水計画、空間整備・設計、プロムナード

**学生会員 日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻
(〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 Tel&Fax047-469-5427)

***正会員 工博 日本大学教授 理工学部海洋建築工学科

****正会員 工博 日本大学助手 理工学部海洋建築工学科

調査対象地は東京都・お台場海浜公園地域とし、調査視点を歩行中の来訪者に直接面接形式のヒアリング調査を行うことにより、空間評価とその評価要因を把握する(表-1)。

なお調査視点場については、各プロムナード⁴⁾を公園入口から200mごとに区切り24カ所を設定した(図-1)。また、プロムナードの空間構成を捉える方法としては「建物から調査視点場までの距離(D)」と「建物高さ(H)」の比率(D/H)を用いることとする(図-2)。ただし、ここで用いるDは、前述した市街地の街路空間におけるd/hの街路幅dとは異なる。

3. 結果および考察

ヒアリング調査の結果、得られた有効回答者数は183人(男性85人、女性98人)であった。これより、対象地域における評価および評価要素の回答者数は235人(複数回答)を得た。なお図-1は各調査地点

表-1 調査概要

空間評価と評価要因の把握	
調査対象地	東京都・お台場海浜公園地域
調査日・天候	1998年11月21日(土)、28日(土)、29日(日)・晴天
調査方法	直接面接形式によるヒアリング調査
調査対象者	お台場海浜公園地域内に設定した調査視点場を歩行中の来訪者
調査内容	対象地域全体に対する空間評価とその理由
プロムナードにおける空間構成(D/H)の把握	
調査方法	設計図書等から調査員が計測
調査内容	調査視点場から建物までの距離Dと、最も近い建物高さHよりD/Hを計測

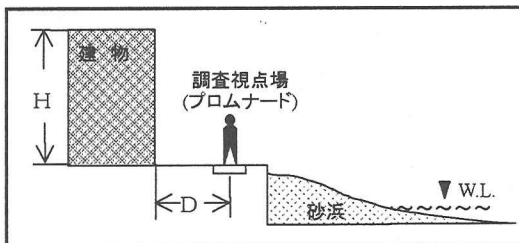


図-2 プロムナードにおける空間構成(D/H)の把握方法

における D/H と移動方向別(ホテル日航から台場公園、台場公園からホテル日航)の回答者数を、表一2は対象地域の評価と評価要素を示している。

(1)お台場海浜公園地域に対する評価

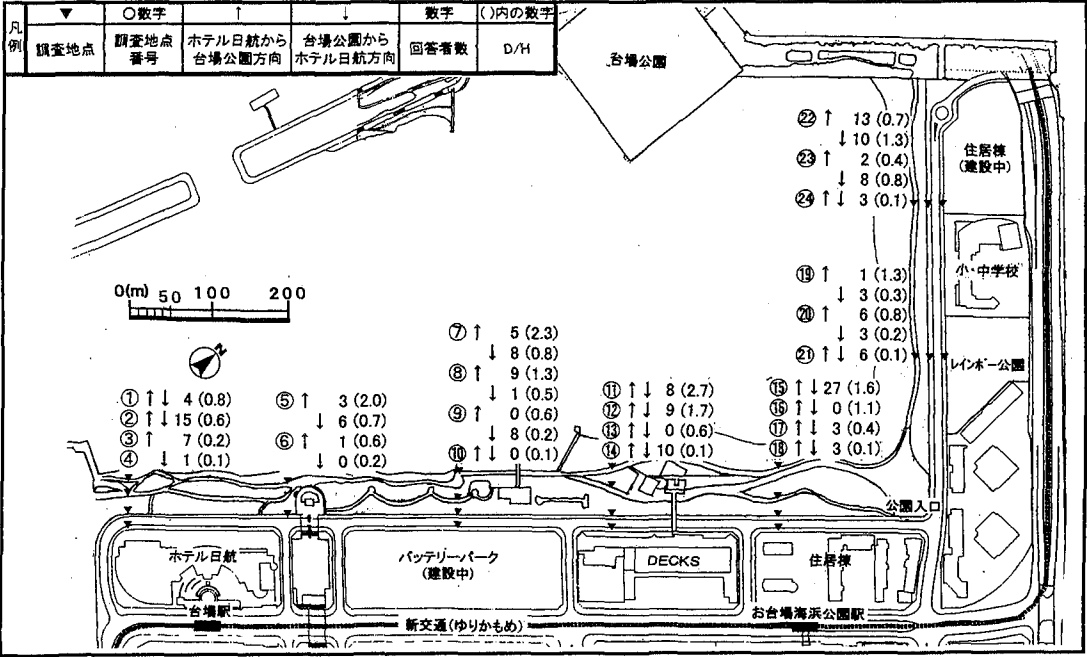
表一2より、お台場海浜公園地域に対する評価は「良い」が合計 166 人(70.6%),「悪い」が 45 人(19.2%),「どちらでもない」が 24 人(10.2%)であった。これより7割程度の回答者が、この地域を良い景観と評価していることがわかる。

(2)評価要素別の特徴

表一2より、どの様な要素に着目し評価しているのかをみると、「公園全体」とした人は小計 88 人と最も多く、そのうち「良い」と評価した人(73 人)の多くは「景色」(29 人)「調和」(13 人)などの公園一体を評価していることがわかる。これは、「海」「建物」「植栽」など複数の要素をバランスよく見ることができるからであろう。これに対して、「プロムナード」とした人は3人のみであることから、「プロムナード」自体は評価対象となりにくく、そこから眺められる周囲の景観を評価対象としていることがわかる。

表一2 公園の評価と評価要素 【複数回答, 単位:人(%)】

評価要素		良い	悪い	どちらでもない	合計
公園全体	景色	29	3	0	32
	調和	13	3	1	17
	雰囲気	15	0	1	16
	人工的	7	2	3	12
	自然的	3	0	1	4
	存在	3	0	0	3
	その他	3	1	0	4
小計		73	9	6	88
海	存在	15	0	2	17
	眺望	6	3	0	9
	水質	0	1	0	1
	距離が近い	1	0	0	1
	建物と近い	0	0	1	1
小計		22	4	3	29
建物	存在	8	3	6	17
	デザイン	1	5	3	9
	高さ	1	1	0	2
	向き	0	1	0	1
	小計	10	10	9	29
植栽	存在	12	3	0	15
	多い	4	3	1	8
	少ない	1	5	0	6
	小計	17	11	1	29
空間	広い	23	0	1	24
	狭い	0	3	0	3
	小計	23	3	1	27
レインボーブリッジ		8	3	0	11
道路の見通し		3	0	0	3
プロムナード	形状	2	0	0	2
	位置	1	0	0	1
	小計	3	0	0	3
その他		7	5	4	16
合計		166 (70.6)	45 (19.2)	24 (10.2)	235 (100.0)



図一1 調査対象地および調査地点

「公園全体」に次いで回答者数の多い「海」(小計 29 人)、「建物」(小計 29 人)、「植栽」(小計 29 人)、「空間」(小計 27 人)をみると、「海」「空間」は「良い」とした人(22 人, 23 人)が多く、特に「存在」(15 人)「眺望」(6 人)「広い」(23 人)に評価が集まっている。これはWFの特徴である海という開放的な空間が存在することにより、視界が確保できるからだと考えられる。

「建物」については、「良い」(10 人)と「悪い」(10 人)が二分しており、「存在」を「良い」とする人(8 人)は多いが「デザイン」は「悪い」とする人(5 人)が多い。

「植栽」については、その「存在」を「良い」とする人(12 人)が多く、またその量が「多い」に対しては「良い」(4 人)と「悪い」(3 人)がほぼ同数で評価が分かれ、「少ない」に対しては「悪い」(5 人)が多い。このことから、植栽自体は評価が高いものであるが、その密度や位置によって評価が変わるといえる。

(3) プロムナードの空間構成(D/H)と評価要素の関係

図—3～7は、評価要因(プロムナードの空間構成(D/H)と評価要素の関係)を捉えるために、前節で求めた評価要素のうち、回答数の多い上位5位までの要素(「公園全体」「建物」「海」「植栽」「空間」)を取りあげ、それらの評価をD/H別に示したものである。

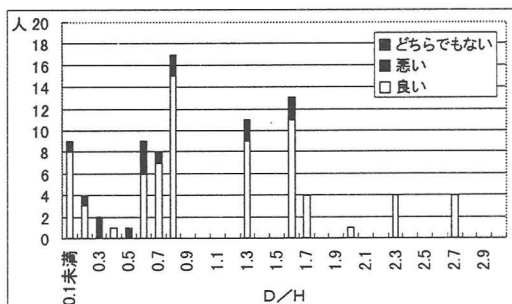
a) 「公園全体」の評価とD/Hの関係

図—3より、評価対象を「公園全体」とした回答者は、おおむねD/Hが0.6～1.6(写真—1)で多く、「良い」という評価で占められていることがわかる。このように、D/Hが比較的小さくても、評価を「良い」としているのは、WFは片側が海・砂浜を有しているため、視界が開け、お台場海浜公園地域全体を見渡すことができるからだと考えられる。

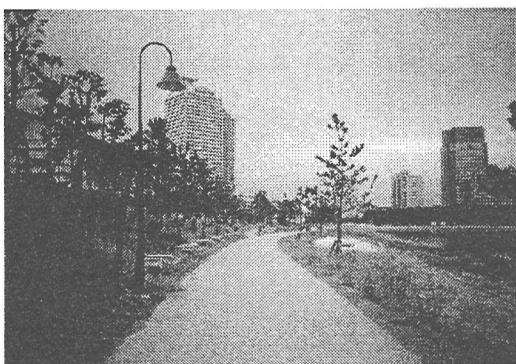
b) 「海」の評価とD/Hの関係

図—4より、評価対象を「海」とした回答者はD/Hが1.3～1.7(写真—2)で多く、そのほとんどが「良い」としているが、D/Hが0.1未満では多くが「悪い」としている。これは、D/Hが小さいと、海までの距離が遠かったり、周辺の事物などの影響で海への眺望が遮られてしまうからだと考えられる。

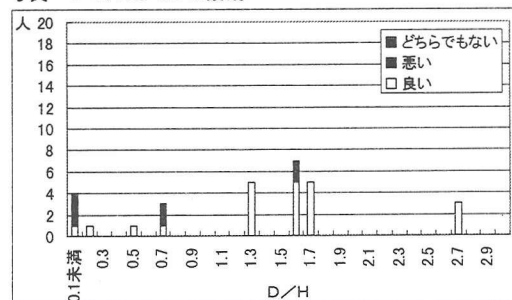
c) 「建物」の評価とD/Hの関係



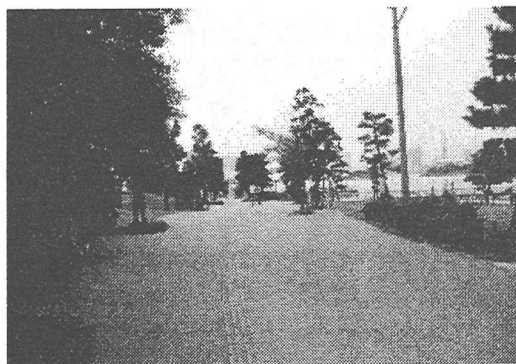
図—3 「公園全体」におけるD/H別の回答分布と評価



写真—1 D/Hが1.3の景観



図—4 「海」におけるD/H別の回答分布と評価



写真—2 D/Hが1.7の景観

図—5より、評価対象を「建物」とした回答者はD/Hが0.1未満～0.8(写真—3)で多いことがわか

る。これは、D/H が小さいと、建物までの距離が近くなり、建物のテクスチャーや商業施設による賑わい等が目立つためだと考えられる。しかし、その賛否は分かれるところである。また、D/H が 1.3 以上でも回答され、その評価は「悪い」「どちらでもない」が多くなる。これは、建物までの距離が遠くなると、建物が群として捉えられ、建物を図としてではなく地として認識し、茫漠とした印象を受けやすいためであると思われる。

d)「植栽」の評価と D/H の関係

図—6 より、評価対象を「植栽」とした回答は、幅広い D/H で回答があがっているが、D/H が小さくなるにしたがい、「良い」が多くなる傾向がみられる。これは、D/H が小さいと空間が狭まり、植栽が視対象となりやすく、植栽そのものや植栽越しに海が見える状況が評価されたためと考える。

e)「空間」の評価と D/H の関係

図—7 より、評価対象を「空間」とした回答は、幅広い D/H でそのほとんどが「良い」と評価していることがわかる。これは海浜が有する開放感を評価しているためであろう。

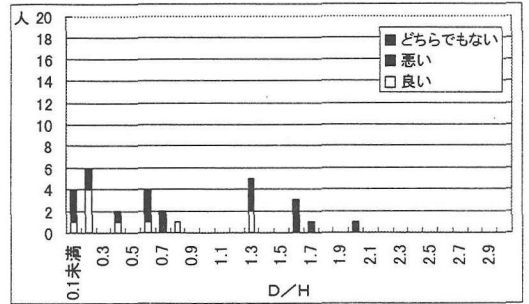
4. まとめ

以上より、お台場海浜公園地域はおおむね良い景観として評価されており、その評価要素は「公園全体」が最も多く、それは「海」「建物」「植栽」等を一望できることが要因であると考察した。したがって、WF 開発においてプロムナード整備を行う際には、それらのバランスに留意することが重要となろう。

また、プロムナードの空間構成(D/H)と評価要素の関係は、いずれの評価要素においても、概ね D/H が 2 より小さい状況のときに「良い」とした人が多い。このことから、市街地の街路空間における指標(d/h)をそのままWFのプロムナードに適用することは困難と考えられ、WFならではの指標を新たに導く必要がある。

【参考・引用文献】

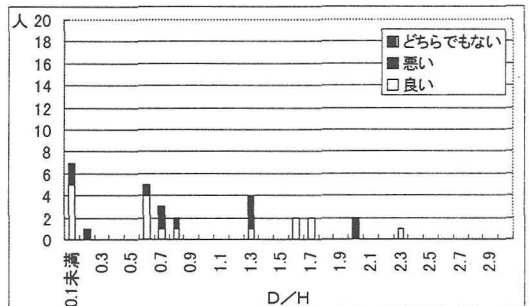
- 1)山本和人, 下村彰男: 明治期から戦前期に至るプロムナードの系譜と空間形態, 造園雑誌第 54 巻第 5 号, pp.353-358, 1991.3.
- 2)ケヴィン・リンチ著, 山田学訳: [新版]敷地計画の技法, 鹿島出版会, pp.243-244, 1987.



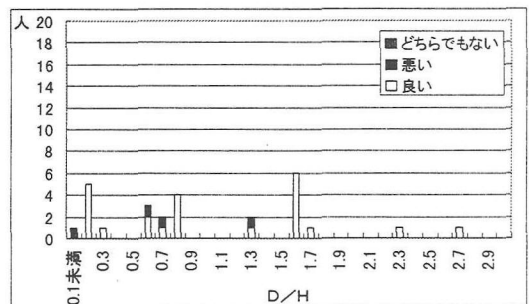
図—5 「建物」における D/H 別の回答分布と評価



写真—3 D/H が 0.2 の景観



図—6 「植栽」における D/H 別の回答分布と評価



図—7 「空間」における D/H 別の回答分布と評価

3) 芦原義信: 外部空間の構成, 彰国社, pp.41-42, 1963.

4) 上野幸太, 横内憲久, 岡田智秀ほか2名: お台場海浜公園のプロムナードを視点場とした海と建物の見え方の現状把握, 日本大学理工学部学術講演論文集, pp.760-761, 1998.11.